

令和2年度第3回岡山県環境審議会政策部会 議事概要

(開催要領)

1 開催日時：令和3年1月20日(水) 9:30～11:40

2 場所：ピュアリティまきび 3階 飛翔

3 出席者：

○委員(五十音順、敬称略)

赤井藤子、阿部宏史、岡本輝代志、沖陽子、勝山博信、河原長美、澁谷俊彦、高橋正徳、永富真理、藤木茂彦/計10名

○事務局(県)

環境文化部次長、環境文化部参与(環境管理課長事務取扱)、環境企画課長、新エネルギー・温暖化対策室長、循環型社会推進課長、自然環境課長、事務局職員

議 題	岡山県環境基本計画(エコビジョン2040)修正案(粗案)等について
会議資料	別添資料のとおり
議事概要	<p>(環境企画課長が資料に基づき説明)</p> <p>資料5「キャッチフレーズ・体系図・推進体制図の再検討について」、資料6「SDGs、重点プログラム・指標一覧」、資料7「冊子・概要版 完成イメージ」から審議したい。</p> <p>まずは、キャッチフレーズのA案「多彩で豊かな環境! わたしたちの岡山を 次の世代へ」及びB案「山から海まで いろとりどりの環境に恵まれた 暮らしやすい岡山を 次の世代へ」について、意見があるか。</p> <p>B案は、文章が長く、読むのに戸惑う。</p> <p>A案は、岡山らしさがない。「岡山」という言葉だけでは十分ではない。</p> <p>提案だが、A案の「多彩で豊かな」という抽象的な表現を、B案の「山から海まで」とし、「山から海まで ○○○○ わたしたちの岡山を ○○○○」としてはどうか。「山から海まで」という表現は、山に雨が降って、瀬戸内海に流れ込むというイメージができて良い。</p> <p>先ほどの意見に賛成である。</p> <p>A案の「わたしたちの岡山を 次の世代へ」は、今の環境が非常に良いものだと捉えられてしまう可能性もある。</p>
事務局説明	
—委員意見—	
委員	
委員	

	<p>また、「環境」という言葉がメインフレーズとサブフレーズの両方にあり、重複する。</p> <p>「持続可能な社会」は一般の人には分かりにくいいため、これを分かりやすく表現するフレーズが必要だと考える。</p>
委員	<p>「多彩で豊かな」を「山から海まで」とする。「わたしたちを」の表現について意見があるか。</p>
委員	<p>「山から海まで 多彩で豊かな岡山を 次の世代へ」ではどうか。</p>
環境企画課長	<p>「持続可能」を別の言葉で表現するのはなかなか難しいが、どうか。</p>
委員	<p>「住み続けたい」でも良い。</p>
委員	<p>とりあえず暫定で「山から海まで 多彩で豊かな岡山を 次の世代へ」とする。</p> <p>次に、体系図についてはどうか。</p>
委員	<p>弱視や高齢者の方等のため、文字の重なるデザインは避けたほうが良い。</p> <p>案③が最も鮮明であるが、岡山県らしさがほしいため、案⑤のような岡山県のシルエットを案③の中央白抜きの部分に組み込んでどうか。</p>
委員	<p>キャッチフレーズや体系図は、短く、簡潔なものが良い。</p> <p>キャッチフレーズは、「山から海まで 豊かな岡山を 次世代へ」のように、より短く、コンパクトなものが良い。</p> <p>体系図については、案②、案③及び案⑤は良くないと思う。</p> <p>案①が、幼稚ではあるが、一番岡山らしさが出ている。ただし、色合いが良くないので修正したほうが良い。案①以外は、どこの県でも使える。</p> <p>特に、案⑥はぜひやめてほしい。</p>
委員	<p>なぜ案①などには、エコビジョン2040と記載されていないのか。</p>
環境企画課長	<p>基本的には、4つの柱と2の柱の関係を示すものなので記載していない案もあるが、それぞれどこかに記載したい。</p>
委員	<p>案③がクリアで良いと思う。</p> <p>また、案③の中心に岡山県のシルエットを入れる案に賛成である。</p>
委員	<p>資料7の「冊子・概要版 完成イメージ」は、前のものを踏襲しているとのことだが、それらの出来上がりのイメージに合わせたような体系図が良い</p>

	<p>と感じる。</p> <p>そうだとすれば、案③となると思う。</p> <p>案⑥も私は見ごたえがあっていいと思うが、「気候変動」と「安全・安心な生活環境」の位置は逆にしたほうが落ち着く。</p>
委員	<p>それでは、意見の多かった案③をベースに、中央に県のシルエットを入れる案とする。なお、「より良い環境に恵まれた持続可能な社会」は、本日決めるキャッチフレーズに変えるということになる。</p> <p>「山から海まで 多彩で豊かな岡山を 次の世代へ」の「多彩で」は、外したほうが良いか。</p>
委員	<p>「多彩」か「豊かな」のどちらかを外したほうが良い。</p>
委員	<p>「山から海まで」は「多彩」を表現しているので、「多彩で」を消すことにし、<u>「山から海まで 豊かな岡山を 次世代へ」</u>とすることで良いか。</p>
一同	<p>異議なし</p>
委員	<p>資料6、7について意見はあるか。</p>
委員	<p>資料6について、示されている説明だけでは、SDGsの策定経緯が分かりづらいため、記載を拡充すべき。</p> <p>また、県の取組とSDGsとの関連性を示すことの意味・趣旨を書いておかないと、唐突で分からないと思う。</p> <p>加えて、重点プログラム・指標一覧に、本編における該当ページ番号が追記されると理解しやすく、SDGsに関心のある人が、この一覧から関連の重点プログラムを見ていくこともできる。</p>
委員	<p>資料3、11ページ、「(2) 循環型社会の形成」における「公益財団法人日本財団」という固有名詞が記載されることに差し支えないか確認してほしい。今後、他の事例が生じた際に、「日本財団」だけ記載されているということになるおそれがあるが、それで問題ないかどうか。</p>
環境企画課長	<p>個別具体の取組成果を事実として記載しているものだが、全体のトーンも踏まえ、今一度確認・検討したい。</p>
委員	<p>資料3、16ページ、「(4) 自然と共生した社会」が「共生する」から過去形の表現に変更されている。趣旨が通っているなら問題ないが、確認してほしい。</p> <p>また、資料3、19ページ、「県の事務事業から生じる温室効果ガス排出</p>

<p>環境企画課長</p>	<p>量」について、現状と努力目標の根底となる定義が異なるのであれば、文章で記載する案のほうが良い。県民に誤解がないよう、文章で記載すべき。</p> <p>「自然と共生した社会」については、個別計画等の表現とも合わせて、このような表現とした。過去形ということではなく、自然との共生が完了している、こうなっている社会を目指すということを意味している。</p> <p>「県の事務事業から生じる温室効果ガス排出量」については、誤解のない表現としたい。</p>
<p>委員</p>	<p>資料2、8ページ、38～40について、努力目標の再検討は良いと思うが、全体的に、努力目標値の策定経緯が分からない。関係者は分かると思うが、一般の方にとっては、この努力目標値が目標として適切なのか分からないため、説明が付くものは付記することが可能だろうか。</p> <p>また、パブリックコメントでは防災の観点の意見が多々あったが、修正案にはあまり記載されていない。防災が先立つ必要はないと思うが、「第4章 具体的な取組」などに含むことができるかどうか考えてみてほしい。</p>
<p>環境企画課長</p>	<p>努力目標については、すべてに注釈を付すのは難しいが、どういうふうにできるか、少し検討させていただきたい。</p> <p>お話のとおり、植栽や森林整備と併せて防災の観点の必要性についての御意見もあった。</p> <p>例えば、太陽光発電に関し、第2章において、そうした観点も含め、地域の理解を得ながら設置を進めるため条例を制定したと記載しており、防災の観点が環境にまったく結びつかないとは思っていないが、防災について、ストレートに第4章で述べることは難しいと考える。</p>
<p>委員</p>	<p>岡山は、安全・安心というイメージが強い。このイメージを大事にするならば、それなりの対策を取っているような言葉があれば安心できる。</p>
<p>委員</p>	<p>国のレベルでは、河川に関する防災では、地球温暖化に伴う降水量変化を考慮するなど、地球温暖化問題を重要課題と捉えているが、県の状況は少し違うと思うし、防災面のことを計画に盛り込むのは難しい。</p>
<p>委員</p>	<p>新型コロナウイルスは、経済・社会・環境など、あらゆる面で影響を及ぼしているが、文章中にこのような影響を盛り込んでいるか。状況の変化により、本計画を見直さないといけなくなるかもしれないが、どう認識しているか。</p> <p>また、横断的な視点「環境の未来を創る経済振興」の「経済振興」は、県で使用されている言葉なのか。少し昔の言葉であるような気がしており、「経済発展」のほうが一般の人に受けやすいと思う。</p>

<p>環境企画課長</p>	<p>県は、広域的な視点を持つことが大事である。文章中に近隣県のことは記載されているが、県内市町村に対する計画面での調整に関して記載されているか。十分に記載されていないようであれば、記載してほしい。</p> <p>第2章において、新型コロナの状況と影響について記述しており、今後、環境保全の取組を進めていく上で、新しい生活様式に沿って進めていく必要があるという課題認識を記載している。</p> <p>また、新型コロナの影響を受けて、取組や指標など計画どおりに全うできなくなる可能性も踏まえ、感染症の流行等に柔軟に対応することを第5章「計画の進め方」に盛り込んでいる。</p> <p>現時点では、どうなっていくかは想定しづらく、現状ベースで目標を立てているが、状況が変わっていけば数値も変わっていくので、今後も注視しながら柔軟に対応していく。</p> <p>また、「経済振興」は、一般用語として使っている。御意見のとおり、「経済発展」や「産業振興」という表現をよく用いているとは思いますが、経済「発展」の意味合いも考えつつ、このような表現としている。いずれにしても、意図としては環境と経済の両立を表すもので、特に御意見がなければ、このまましていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>確認だけである。</p>
<p>環境企画課長</p>	<p>また、広域的な視点について、基本的には、連携・協働の仲間として市町村が入っている。一緒になって取り組んでいくことについては、第5章の広く様々な主体と協働するという中に市町村を含めているところである。</p>
<p>委員</p>	<p>新型コロナの問題は、人間社会が未知の森林等に侵入することで、今まで接触することのなかった生物や病原菌と触れてしまっているという側面がある。人間にとって都合の良い生物だけを良しとし、都合の悪い生物を拒否するという考えは良くない。新型コロナの記述には、人間が自然に踏み込んでいったことが背景にある、という表現があると良い。</p> <p>また、「環境ひろば」を通じて環境学習等の活動を行う中で、最近は、地球温暖化について知りたいという要望が少なくなってきた気がする。地球温暖化に関するニュース等が多く採り上げられるようになった一方、それに慣れてきているという側面があると思う。</p> <p>どのように危機意識や気候変動対策の必要性を訴えかけていくか考えてほしい。</p>
<p>環境企画課長</p>	<p>新型コロナに関しては、様々な意見・考え・諸説がある中で、客観的に捉えるという意味で武漢市という限定した表現も修正することとしたところである。先ほどの御意見は個人的には共感する部分もあるが、新型コロナに</p>

<p>委員</p>	<p>については、客観的に捉えた表現としたい。</p> <p>県民意識調査の結果では、地球温暖化に関する情報をもっとほしいという意見が多く、関心が高いと思っているが、現場の感覚としては様々あるということが分かった。</p> <p>最近では、脱炭素社会という言葉が日々報道される中で、今後、そういう言葉に慣れてしまうということは確かにあるかもしれないので、効果的な情報発信を行っていききたい。</p> <p>パブリックコメントを見ても、脱炭素社会、カーボンニュートラル、ゼロカーボンなど、同じ意味ではあるが、用語の錯綜があると思う。</p> <p>第5章「状況に合わせた改善」について、これから先の10年で、ものすごい技術革新があるのではないかと思う。</p> <p>本計画を見直す前提として、技術革新が起きた場合、というのも加えてほしい。</p>
<p>環境企画課長</p> <p>委員</p>	<p>検討したい。</p> <p>2040年の目標を設定していることは、挑戦的で良いが、努力目標の「努力」という言い方は中途半端ではないか。</p> <p>KPI（数値目標）の項目は、継続的に見ていくということ言えば、変えても変えなくてもいいと思うが、今回、現状の計画から修正したり変更したりしているものはあるのか。</p> <p>また、例えば「森づくり活動への参加企業数」が現状の26から努力目標が28になっているが、この数値の意味が分からない。2040年を目指したときに、どの程度になれば良いのか、細かい理由があり、その中から代表的なものということで、これらが設定されていると思う。排出量などは何となく分かるが、分かりにくい数値目標は、整理整頓されていくんだと思っている。</p>
<p>環境企画課長</p> <p>委員</p> <p>環境企画課長</p>	<p>努力目標の数値は、現行を見直し、入れ替えをしているもの、削除しているもの、新しく加えたものがある。今回は、20年先を目指す中の最初の4年であり、4年が経過すれば、次の4年後の目標を立てていくことになる。中途でも変えるか、状況に応じて対応していきたい。</p> <p>すべての指標に注釈をつけられないかもしれないが、理解が難しい指標については、注釈等により、分かりやすく示していけるか検討したい。</p> <p>「努力目標」ではなく、「目標」ではダメなのか。</p> <p>指標は、取組の進捗を測る目安を示すもの、また、成果として目指していくものという2つの意味があるため、努力目標という表現にしている。</p>

	<p>目標ありきで取り組んでいくというよりは、より良く取組を進めていくということである。</p> <p>委員 東京都では、「3密」という表現までは良かったがその後も、「6つの何々」など次々と打ち出したりして、何を言いたいのかメッセージ性や印象づけが薄れてきている。</p> <p>企業でも一番大事なことは、何を伝えるか、いかに伝わるメッセージを残すかという点だ。</p> <p>行政は、やろうとすることを全部表現しがちだが、イメージが伝わることが大事である。体系図についても、細かいところは覚えてくれないため、イメージとして伝われば良い。県としてやりたいことの強いメッセージを発するのであれば、より分かりやすい内容と、短い用語が大事である。</p> <p>また、本計画では、例えば、太陽光発電に関する努力目標がかなり高くなっているが、現実と努力目標との乖離があるように思う。それを埋めるような説明がなければ、感じるものがない（県民に響かない。）。</p> <p>また、岡山県エコ製品については、ここ数年減ってきている。経済的な視点がないからであり、そうした視点を入れることで増えてくると感じている。消費者としては、多少高くても買うかもしれない。こういうものを追求していくという姿勢が出ていないと、目標を立てても増えていかない。</p> <p>つまり、状況に合わせた改善が非常に大事である。これからの社会は、何かが起こっても、簡単には元に戻らないと思う。何かが起こったときのやり方をもう少し肉付けしていくと良い。</p>
委員	<p>文章中には、計画目標期間である2040年のほかにも、脱炭素社会を目指す2050年や、地球温暖化防止行動計画やSDGs目標年の2030年など、色々な年次が示されている。分かりづらいため、全体の行程のようなものをポンチ絵等でもいいので示してもらえれば理解しやすくなる。</p>
環境企画課長	<p>現在示されている各種の年次を情報として整理して載せるということであれば、工夫したいと思う。ただ、温室効果ガス削減の目標年次に関しても、政府が今後見直しを検討する中で、新しい目線がどこになるのか、注視していかなければならないと思っている。2050年の温室効果ガス排出ゼロと2030年のSDGsの目標年は揺るがないものかと思うので、記載できるかも含め検討したい。</p>
新エネルギー・温暖化対策室長	<p>国において、2050年温室効果ガス排出実質ゼロを表明し、それに向けて地球温暖化対策計画やエネルギー基本計画の見直しが来年度に行われると聞いている。</p> <p>これを受け、温室効果ガス排出に向けてのロードマップが示され、地方自治体ごとに策定が求められることになるのではないかと考えている。</p>

<p>委員</p>	<p>本計画では、具体的に触れることが難しいと思うが、2022年に改定を予定している県地球温暖化防止行動計画の中で、このような部分に触れていくことになると思う。</p> <p>新型コロナがどうなっていくか、様々な説があるが、今後2年は続いていくのではないかというものがある。</p> <p>その影響で、環境関連の数値は自然に下がっていくので、努力目標が達成できるだろうが、子どもたちと社会との交流に制限がかかってくるため、活動が難しくなる。このあたり、どうするのか。</p> <p>また、金融機関が、火力発電所を海外に輸出する企業への投資を引き上げるなど、環境保全への動きが強くなってきていることについて、県としてどう考えているのか。二酸化炭素の削減には、投資の撤退が強烈に作用してくる。</p>
<p>環境企画課長</p>	<p>新型コロナの影響については、これまでも御意見をいただいております、取組を柔軟に見直すことや、多様な手法を採り入れていくことを明記しているところである。</p> <p>また、ESG投資等が拡大してきているところで、今後、企業がどう動いていくか注視したいが、現時点で、県として誘導していくような取組はない。</p> <p>技術革新など、国も、そこを見据えて何か対策を打ってくると思うため、県としても、場合によっては、そうした国の施策を活用しながら取組を進めていきたい。</p>